

2025年度第2回京都競馬特別レース名解説

<第1日>

○ あやめ賞

あやめは、アヤメ科の多年草。日当たりのよい乾燥した草地に自生する。初夏、花茎の先に黄色い筋のある紫または白色の花を咲かせる。アヤメ科には、カキツバタ、シヤガなども含まれる。花言葉は「よい便り」「希望」。

○ 観月橋ステークス

観月橋（かんげつきょう）は、京都市伏見区の宇治川に架かる橋。古くは桂橋といい、豊臣秀吉の伏見城築城時に豊後大友氏によって架け替えられた際、豊後橋と呼ばれるようになった。その後、幕末期の鳥羽・伏見の戦いで焼失したが、明治時代に再建され、秀吉の月見の伝説にちなみ、観月橋と名付けられた。

○ 天王山ステークス

天王山（てんのうざん）は、京都府と大阪府との境にある標高270mの山。古来より戦略上の要地として知られ、争奪の舞台となった。1582年に羽柴秀吉が明智光秀を破った山崎の戦いが有名。この故事から、「天王山」は、勝負を決する大一番のことを指す比喻としても使われている。

<第2日>

○ 比良山特別

比良山（ひらさん）は、滋賀県の琵琶湖西岸に連なる比良山地の高峰群。蓬莱山・武奈ヶ岳・打見山などが並んでいる。近江八景のひとつ「比良の暮雪」に数えられた景勝地。

○ センテニアル・パークステークス

センテニアル・パークは、京都競馬場の愛称。淀に競馬場が開設されて2025年で100周年を迎えることにちなんで名付けられた。

センテニアル（Centennial）は、「100年の、100周年の」を意味する英語。

○ 読売マイルズカップ（GⅡ）

本競走は、マイル路線の拡充を目的として 1970 年に創設された重賞競走。『安田記念』の前哨戦として位置付けられ、春の短距離路線を歩む馬にとって重要な競走となっている。幾度かの変更を経て、2012 年より阪神競馬場から京都競馬場に移設され現在に至る。

なお、第 1 着馬には同年の『安田記念』への優先出走権が与えられる。

読売新聞社は、東京・大阪・福岡に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 3 日>

○ 矢車賞

矢車（やぐるま）は、矢車草の略。ユキノシタ科の多年草。5 枚の小葉が円形に配列された形が特徴。花茎の上部に小さな花が円錐状に集まって咲く。

○ 御池特別

御池（おいけ）は、京都市の中央を東西に通じる幹線道路の名称。名は、二条城の南にある神泉苑の池の前を通ることに由来する。沿道には神泉苑のほか、本能寺や京都市役所などがあり、日本三大祭のひとつである「祇園祭」では、山鉾（やまぼこ）巡行のコースとなる。

○ ユニコーンステークス（GⅢ）

本競走は、1996 年に創設された重賞競走。ダート適性馬の年間を通じた出走機会の確保を目的に、3 歳馬による初のダート重賞競走として創設された。当初は 9 月の中山競馬場でダート 1800m の定量戦、2001 年から 6 月の東京競馬場で 1600m の別定重量戦で実施されていたが、2024 年から『東京ダービー（大井競馬場）』の前哨戦として、4 月の京都競馬場における 1900m の馬齢重量戦となった。

ユニコーン（Unicorn）は、ヨーロッパの伝説上の動物。馬の体をしており、ねじれた一本の角を持つ。神聖な力と純潔の象徴とされ、その角には邪気を払い、いかなる病気も治す力があると信じられていた。

<第 4 日>

○ 島原特別

島原（しまばら）は、京都市下京区にある地名。1907 年（明治 40 年）に京都市下京区に島原競馬場が新設され、翌 1908 年に第 1 回京都競馬が開催された。その名は、現在の長崎県島原市の地名に由来しているとも言われている。

○ 須知特別

須知(しゅうち)は、現在の京丹波町にあった町名。近世では山陰道が通る交通の要所で、宿場町として栄えた。1913年(大正2年)に島原競馬場から京都府船井郡須知町に移転し、改称して開設された須知競馬場において1913年から1924年まで競馬が開催された。

○ 淀ステークス

淀(よど)は、京都市伏見区西南部の地名。名は、川の水が淀むことに由来している。1925年(大正14年)に須知競馬場から京都府紀伊郡向島村字葭島新田に移転し、同年から競馬が開催されて2025年で100周年を迎える。

京都競馬場は、最寄り駅の名から「淀」と通称され親しまれている。

○ 天皇賞(春)(GI)

本競走は、1905年5月6日に横浜の日本レースクラブが、明治天皇から「菊花御紋付銀製花盛器」を下賜され創設した『エンペラーズカップ』を前身とする競走。1906年以降は7つの競馬倶楽部で『皇室御賞典競走』が実施されたが、1937年に日本競馬会が誕生したのを機に、『皇室御賞典競走』は春が阪神、秋が東京と、年2回東西で実施されることとなり、戦争で中断される1944年春まで続いた。戦後の1947年春に『平和賞』の名で復活。同年秋から現在の『天皇賞』に改称され、春は京都、秋は東京で実施されることとなった。

○ 巨椋池ステークス

巨椋池(おぐらいけ)は、かつて京都市伏見区、宇治市、久世郡久御山町をまたいで存在した池。かつては桂川・木津川・宇治川の合流地点であった。1932年に国内初の国営干拓事業として同池の干拓が行われ、農地となり現在に至る。京都競馬場の馬場中央にある池は、巨椋池の名残と考えられている。

<第5日>

○ 久御山特別

久御山(くみやま)は、京都府南部、久世群に属する町。木津川堤防の内側に約4.7haの茶園が広がり、高級茶である碾茶を生産している。特に、「浜台の茶園」は長い歴史を持ち、日本遺産にも認定されている。

○ 鴨川特別

鴨川（かもがわ）は、京都市街東部を貫流し、桂川に注ぐ川。京都北山の棧敷ヶ岳付近に源を発する。高野川との合流点から上流を賀茂川、下流を鴨川と記し、総称では鴨川を用いる。三条大橋・四条大橋・五条大橋など 20 余の橋が架かり、四条河原は納涼地として有名である。

○ 京都新聞杯（G II）

本競走は、1953 年に『京都盃』の名称で創設された重賞競走。1967 年に『菊花賞』のトライアルレースに指定され、1969 年にはそれまでの別定重量（1956 年・1959 年・1960 年はハンデキャップ戦で実施）から定量に移行、1971 年に名称も『京都新聞杯』と変更された。さらに 1984 年には距離が芝 2200m に延伸されるとともに G II に格付けされた。2000 年に『菊花賞』の実施時期が繰り上げられたのに伴い、春季に移設された。この際、競走条件についても 2000m・G III に変更されたが、2001 年から再び G II となり、2002 年には 2200m へと延伸された。2003 年に負担重量が馬齢重量となり、現在に至る。

京都新聞は、京都新聞社より発行されている日刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 6 日>

○ 烏丸ステークス

烏丸（からすま）は、「烏丸小路」の略。東洞院大路と西洞院大路の間にあり、現在の烏丸通りとはほぼ同じものを指す。烏丸通りは、京都市の市街地中央を南北に通じる主要道路で、通りに沿って東本願寺・京都御所・六角堂・護王神社などの歴史的建造物がある。

○ 橘ステークス（L）

橘（たちばな）は、ミカン科の常緑小高木。日本原産唯一の柑橘類とされ、四国・九州・沖縄などに自生する。初夏に芳香のある白色の五弁花を咲かせる。京都御所紫宸殿（きょうとごしょししんでん）の「右近の橘」が有名。花言葉は「追憶」「永遠」。

○ 平城京ステークス

平城京（へいじょうきょう）は、元明天皇が 710 年に藤原京から遷都し、桓武天皇により 784 年に長岡京に遷都されるまでの都。京城は現在の奈良市から大和郡山市に及び、主要部は東西約 4.3km、南北約 4.8km。北端中央を平城宮とし、その南面中央から南下する朱雀大路の東側を左京、西側を右京、左京の東側へ張り出した部分を外京と呼んだ。

<第7日>

○ 京都ハイジャンプ（J・GⅡ）

本競走は、1999年に創設された障害重賞競走。高さ80cm、幅約16mのバンケット障害を使用し、遠近感の乏しい競走馬のみならず、騎手にとっても技量を問われる難度の高い競走となっている。

○ あずさ賞

あずさは、カバノキ科の落葉高木。深山に自生し、高さ20mにも達する。堅く弾力があるこの木で作られた弓は梓弓と呼ばれ、神事などに用いられる。

○ 上賀茂ステークス

上賀茂（かみがも）は、賀茂川と高野川の合流点から上流部の賀茂川流域一帯。賀茂別雷（かもわけいかづち）神社（上賀茂神社）を中心に社家町が形成されている。同神社では、毎年5月5日に日本最古の競馬と言われる「賀茂競馬（かもくらべうま）」が行われている。

○ 鞍馬ステークス

鞍馬（くらま）は、京都市左京区にある地名。奈良時代に創建された鞍馬寺は、後の源義経である牛若丸が厳しい修行を行ったことや、山に住む鞍馬天狗から武芸を習ったという伝説で有名。

<第8日>

○ 白川特別

白川（しらかわ）は、京都市北東部を流れる川。比叡山地に源を發し、祇園付近で鴨川に合流する。また、白川流域一帯の地名。古くは鴨川以東、東山との間の地区を指した。

○ 錦ステークス

錦（にしき）は、京都市中京区にある市場の名称。色鮮やかなアーケードにおおわれた石畳の道が390m続き、京都の旬の食材や京野菜、京漬物などを扱った店が多数軒を連ねている。

○ 栗東ステークス（L）

栗東（りっとう）は、滋賀県南部の市。野洲川南岸の平野と信楽山地北斜面の丘陵地を占める。米や野菜の生産が盛んな一方で、化学・金属・機械工業などの工業地帯としても発展している。

なお、同市にはJRAの競走馬調教施設である栗東トレーニング・センターがある。

<第9日>

○ メルボルントロフィー

メルボルンは、オーストラリア第2の都市。ヴィクトリア州の州都でもある。フレミントン競馬場で毎年11月に行われる『メルボルンカップ』当日は、同州の休日に指定され、オーストラリア最大級のイベントとして大きな注目を集める。

○ オーストラリアターフクラブ賞シドニートロフィー

オーストラリアターフクラブは、2011年2月にシドニー地区の2つの競馬クラブを統合して設立された団体。所有競馬場として、ロイヤルランドウィック競馬場・ローズヒルガーデンズ競馬場・ウォリックファーム競馬場・カンタベリーパーク競馬場が有名。

シドニーは、オーストラリア第1の都市。ニューサウスウェールズ州の州都でもある。ハーバー・ブリッジやシドニー・オペラハウスなどが観光地として世界的に有名。

○ 平安ステークス（GⅢ）

本競走は、1994年に創設された重賞競走。2013年に距離がダート1800mから1900mに延伸され、時期も1月から5月に移設して実施されている。

平安（へいあん）は、平安京の略称。平安京は、794年に長岡京より遷都された都で、大きさは東西4.5km、南北5.2km。平安遷都1100年を記念して1895年に建立された平安神宮は、大極殿と応天門を模造し、平安京大内裏の朝堂院を3分の2に縮小し復元している。祭神は桓武天皇で、1940年に孝明天皇が併せ祀られた。秋には京都三大祭のひとつである「時代祭」が行われる。

○ レーシングオーストラリア賞オーストラリアトロフィー

レーシングオーストラリアは、2015年4月、オーストラリアンレーシングボード・レーシングインフォメーションサービスオーストラリア・オーストラリアンスタッドブックを統合して設立された団体。競馬番組の認可、調教師と騎手の免許交付、血統登録などの業務を行っている。

オーストラリアは、オセアニアのオーストラリア大陸を占める連邦制の国。首都はキャンベラ。

<第10日>

○ 聖護院特別

聖護院（しょうごいん）は、京都市左京区にある寺院とその周辺の地域。排水の良い高燥地であったことから、かつては農業地域として利用され、聖護院ダイコン、聖護院カブなどの名が残っている。

○ 高瀬川ステークス

高瀬川（たかせがわ）は、京都市中南部にある運河。17世紀初め角倉了以（すみのくらしょうい）が鴨川沿いに開いた鴨川の分水路で、伏見を経て宇治川に通じる。名は、貨物運送の高瀬舟が上下したことに由来する。森鴎外の「高瀬舟」や、吉川英治の「宮本武蔵」などの中で描かれている。

○ 都大路ステークス（L）

都大路（みやこおおじ）は、京都市内を縦横に走る通りの総称。都の大通り、都の幅広い主要な道路のこと。京都は碁盤の目状に区別された平安京を基に発達した町で、現在でも三条通、四条通といった当時を偲ばせる呼び名の通りが残っている。

<第11日>

○ 鳳雛ステークス（L）

鳳雛（ほうすう）は、鳳凰の雛のこと。また、将来が期待される優れた才分を持つ人物の雅称。中国の「三国志」で、軍師として有名な龐統は「鳳雛」と称され、周囲から将来を囑望されていたと言われている。

○ 桃山ステークス

桃山（ももやま）は、京都市伏見区の地名で、宇治川の北岸の地域。江戸時代に、かつて豊臣秀吉が築いた伏見城が取り壊され、その跡地に桃の木が植えられたことに由来する。

○ 葵ステークス（GⅢ）

本競走は、2018年に創設された3歳馬限定の重賞競走。2022年よりGⅢに格付けされ、2024年に負担重量が別定重量から変更となり、芝1200mの馬齢重量戦で実施される。

葵（あおい）は、アオイ科の植物の総称。また、家紋のひとつで、フタバアオイの葉を図案化したもの。賀茂神社の神紋に由来し、徳川氏の葵巴の紋などが有名。同神社で5月15日に行われる葵祭は、石清水祭、春日祭とともに三勅祭のひとつに数えられる。

<第12日>

○ 與杼特別

與杼（よど）は、京都競馬場のある京都市伏見区「淀」の古称。同地には、鉄器の製造や稲作、機織りを伝えた秦一族が住んでいたことから、横糸を通す織物の道具である「杼（ひ）」にちなんで「與杼」という名が伝えられたとされている。京阪電鉄淀駅近くには與杼神社がある。

○ 安土城ステーキス（L）

安土城（あづちじょう）は、滋賀県近江八幡市にあった城。現在は城跡全体が特別史跡に指定されている。1579年に織田信長が天下統一の拠点として築城した。信長は、その3年後に京都の本能寺で明智光秀に襲われ、安土城はそれに続く山崎の戦いの余波で焼失した。

○ 白百合ステーキス（L）

白百合（しらゆり）は、ユリ科の一種で花の白いユリのこと。5～8月頃に花を咲かせ、主に観賞用として栽培される。花言葉は「純潔」「無垢」。

○ 渡月橋ステーキス

渡月橋（とげつきょう）は、京都市右京区桂川に架かる全長155mの橋。付近にそびえる嵐山の景色を眺めながら、ボート遊びや屋形船、夏には鵜飼を楽しむことが出来る。